

新潟市スポーツ推進計画  
第 2 次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画  
〈平成 3 0 年度実施事業〉  
進行管理調書（抜粋版）

— 目次 —

1	健康スポーツ・・・・・・・・P 1～2	スポーツ振興課
2	競技スポーツ・・・・・・・・P 5～6	スポーツ振興課
3	みるスポーツ・・・・・・・・P 7～8	スポーツ振興課
4	支えるスポーツ・・・・・・・・P 9～1 0	スポーツ振興課
5	スポーツ情報ネットワーク スポーツ医科学支援体制・・・P 1 3	スポーツ振興課

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成30年度実施事業 進行管理調書

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。
基本目標	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。

A・・・指標を上回って達成  
B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った  
D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている  
2・・・概ね取り組まれている  
1・・・より積極的な取り組みをお願いする  
0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)			
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
1	新潟シティマラソン	平成29年度より開催日を体育の日に移し、デンカビッグスワンスタジアム前発～市陸上競技場着の新たなコースに変更、制限時間も延長(5→7時間)するなど大幅リニューアルを行った。 平成30年度は、10月8日(月・祝)に開催。日本陸連公認コースのマラソン(42.195km)とファンラン(11.0km)の2種目を設定、マラソン8,270人、ファンラン3,735人のエントリーを得た。	エントリー者数 12,000人	エントリー者数 12,005人 市内:6,954人 県内:2,528人 県外:2,523人 (うち国外:85人)	B	前年度(12,957人)に比べエントリー者数は大きく減ることとなったが、目標は達成することができた。	1	本大会の開催日前後には多くの大規模大会開催が予定されており、今後参加者の確保が重要となる。 大会リニューアル前最大の強みであった3連休中日での開催を実現させ、制限時間7時間と合わせ参加しやすい大会であることを積極的にアピールし参加者獲得を目指す。	3	PRのための取り組みをより充実させ、さらに盛り上がりを見せられるとよりよくなる。 開催による経済効果を前面に出すのもよいのでは。
2	少年少女スポーツ大会	児童の健全育成や親睦、コミュニケーション能力の育成を図ることを目的として、昭和40年より開催している。 平成30年7月14日～8月12日 種目:野球・サッカー・ミニバス・バレー 参加チーム総数:316チーム	エントリーチーム数 野球:75チーム サッカー:81チーム ミニバス:144チーム バレー:27チーム	エントリーチーム数 野球:71チーム サッカー:78チーム ミニバス:139チーム バレー:28チーム	C	少子化などの影響と思われるがその年により参加チーム数に変動はあるもの、概ね例年とおりのチーム数を維持しており、夏に行う大会として定着し、次代を担う青少年の心身の健全育成を図る大会となっている。	2	今後も参加チーム数を維持していくため、実行委員会と連携を図りながら、親しむ・楽しめる大会となるよう実施していく。	2	少子化の影響などもあるが、今後も熱中症などへの対策を講じながら開催してほしい。
3	早起き野球大会	早起き野球を通して、市民が積極的にスポーツに親しみ、スポーツ振興と相互の親睦を図ることにより豊かな社会生活に寄与することを目的に開催した。 【第53回新潟市早起き野球大会】 期日:平成30年5月20日～7月29日 会場:ハードオフエコスタジアム新潟 外9会場 参加チーム数:148チーム	エントリーチーム数 160チーム	エントリーチーム数 148チーム	C	エントリーチーム数については全国的に減少傾向にあるが、本大会は日本一の規模を誇っている。	2	参加チームの維持・増加につながる対策を検討し、競技方法及び運営方法を改善するなど大会の魅力向上に努める。	2	より参加しやすくなるような取り組みをしてほしい。
4	新潟シティライド	自転車を有効に活用して市民の健康の維持・増進とサイクルスポーツの普及・促進を図ることを目的として、市内をサイクリングしながらエイドステーションで新潟ならではの食を堪能できるイベントを開催した。 平成30年6月3日(日) ロングライド(120km)・ミドルライド(70km)・ショートライド(33km)	エントリー者数 ロングライド:550人 ミドルライド:50人 ショートライド:50人	エントリー者数 ロングライド:617人 ミドルライド:107人 ショートライド:50人	A	ロングライドとミドルライドの定員をそれぞれ50名ずつ増やしたが、ミドルとショートはエントリー開始後すぐに、ロングも14時間前から定員に達し、人気の高さがうかがえる。	2	この人気を維持するため、一度限りの参加ではなくリピーターとなってもらえるよう、魅力のあるイベントにする。	2	運営面での課題はあるものの、概ね順調に取り組まれている。
5	新潟ヒルクライム	岩室地域の魅力を全国に発信し、交流人口の拡大を図るとともに、サイクルスポーツの振興を目的として、弥彦競輪場での1マイルタイムトライアルと岩室温泉をスタートし弥彦山スカイラインを麓から頂上まで自転車で駆け上がるヒルクライムの2種目で開催した。 平成30年9月1日(土) 1マイルタイムトライアル:弥彦競輪場4周回(距離1.6km) 平成30年9月2日(日) ヒルクライム:岩室温泉から弥彦山頂(距離7.6km/5.3km)	エントリー者数 500人	エントリー者数 584人	A	1マイルタイムトライアルを新設したことで、多くの参加者を獲得でき、ヒルクライムとは違った楽しさを提供することができた。	1	新設した1マイルタイムトライアルをより広く周知し、さらなる参加者数増を図っていく。	2	運営面での課題はあるものの、概ね順調に取り組まれている。

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成30年度実施事業 進行管理調書

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。
基本目標	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。

A・・・指標を上回って達成  
B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った  
D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている  
2・・・概ね取り組まれている  
1・・・より積極的な取り組みをお願いする  
0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)			新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)				
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
6	氷上スポーツ体験学習推進事業	新潟市アイスアリーナで小学生に氷上スポーツを体験させることで氷上スポーツ愛好者の底辺拡大を図るため、市内小学校の校外活動時のバス送迎に係る経費と施設利用料金を助成した。	実施校数 70校	実施校数 52校(53件)	C	引き続き周知時期・事業開始時期を早め実施の機会の拡大に努めたが、数値目標、対昨年度(54校)比ともに下回る結果となった。 学校の授業カリキュラムが増加しているなど、校外学習を授業時間に入れることが難しくなっている状況も影響していると考えられる。	1	各校の年間計画の策定に配慮し、周知・事業の開始期を29年度同様に早め、引き続き実施の機会を増やしていく。 実施する学校が一定であることから、新規に本事業を導入してくれる学校の発掘が必要であり、取り組みが必要と考える。	1	アイスアリーナに行きたくするような雰囲気づくり、より利用してもらえるような取り組みをしてほしい。 アイスアリーナをもっとPRし、認知度の向上を。
7	市民綱引き大会 (スポーツ協会)	冬期間のスポーツとして、綱引きを通じて地域スポーツの振興と市民相互の親睦を図るとともに冬場の健康維持・増進を目的に気軽に参加できる種目として開催した。 今大会は30回記念として、記念種別として一般と小学生と一緒に綱を引くカテゴリーを新設して実施した。 ・一般の部(混成の部) ・小学生の部(高学年の部、低学年の部) ・第30回記念大会 一般と小学生混成の部	エントリーチーム数 一般の部:16チーム 小学生の部:50チーム	エントリーチーム数 一般の部:14チーム 小学生の部:49チーム 一般と小学生混成の部:16チーム	A	毎年参加する常連のチームが多く、市民の間で冬場のスポーツイベントとして定着しており、多くの参加者を保っている。大会開催前より、各地域で練習に取り組む活動を行うことから、冬場の健康維持・増進に寄与している。記念種別の実施により、8行政区全てからチームの参加があり、次年度以降は新規チームの参加も期待できる。	1	健康づくりや地域間の交流の場として、当初の目的は達成している。 実行委員会や地域団体、協賛企業と協力しながら参加者の拡大・内容の充実に努める。	3	地域、学校、クラブ単位で一体感が生まれているなど、雰囲気の良い大会であり、順調に取り組まれている。
8	健康・体力づくりのつどい (スポーツ協会)	市民が健康で、いつでもどこでもいつまでも、気軽にスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目的に、かけっこ教室や逆上がり教室、体力測定など市民ニーズに対応したイベントを開催した。	参加者数 2,200人	参加者数 1,650人	C	台風接近に伴い、一部種目が中止となり、前年(2,550人)と比べて参加者数が減少した。 スポーツ少年団たすきリレーマラソンでは、イベントを通じて少年団の活動や理念を理解してもらい新規登録を促す目的で、今年度から少年団未登録チームでも参加できるように変更して好評を得た。	1	より魅力ある市民参加型イベントにするために、大学生や競技団体等からボランティアを募るほか、企業協賛の拡充を図るなど、地域と一体となって事業の充実に努める。	2	会場を市陸上競技場だけでなく、他区体育施設も活用するなど、地域で参加しやすいようにしてほしい。
9	市民サッカー大会 (スポーツ協会)	生涯スポーツの普及と市民相互の親睦を図り、健康の維持増進を目的に、サッカー大会を開催している。	エントリーチーム数 90チーム 参加者数:1,250人	エントリーチーム数 95チーム 参加者数:1,240人	B	当年度から市の予算措置がなくなったため予算を前年比2/3に縮小して開催した。当初は参加者減少が見込まれたが、未経験者でも参加しやすいようカテゴリーを変更するなど取り組みを行ったことで、前年(96チーム、1,230人)並みの参加者数・チームであった。	2	市民の健康づくりとスポーツの振興に貢献していることから、当初の目的はほぼ達成している。 参加者層が高齢化していることから、安全性の観点からもカテゴリー分けについて引き続き検討していく。	3	高齢者の参加が多くなっているのは良いこと。 チーム数も増えており、順調に取り組まれている。
10	市民総合体育祭 (スポーツ協会)	春季と秋季の年2回、スポーツ協会加盟団体がスポーツの普及振興と競技力向上を目的に開催している。	開催種目数 春季:20種目 秋季:30種目	開催種目数 春季:24種目 秋季:35種目	A	市民総合体育祭を主管する加盟競技団体と連携し、市民の健康増進と競技力の向上が図れた。	2	競技の普及・振興ならびに競技力の向上に寄与することから継続して実施する。また、未実施の加盟競技団体へ大会開催の声掛けを行う。	2	競技数が増えており、一般から参加しやすいようにされている。 生涯スポーツの普及につながるような取り組みをしてほしい。
11	新潟県障がい者スポーツ大会開催事業	新潟県とともに全国障害者スポーツ大会の派遣選考大会である「新潟県障害者スポーツ大会」を開催した。	参加者数 個人競技:6種目・750人 団体競技:5種目・130人	参加者数 個人競技:6種目・744人 団体競技:5種目・261人	A	障がいのある人が参加できるスポーツ大会が少ない中で、日頃のスポーツトレーニングの成果を競い合う良い機会となっている。	2	参加者が年々減少傾向にあるため、大会の周知を行いながら、今後も引き続き大会を開催する。	2	概ね順調に取り組まれている。

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成30年度実施事業 進行管理調書

基本方針	競技スポーツ: 競技力の向上を推進します。
基本目標	新潟から世界へ羽ばたく選手を育成し、世界を目指すスポーツ文化の発信地になる夢を実現するため、競技力の向上を推進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
 E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
 7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている  
 2・・・概ね取り組まれている  
 1・・・より積極的な取り組みをお願いする  
 0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)			
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
1	ジュニア強化事業 (スポーツ協会)	新潟市からオリンピックなど国際大会で活躍し世界へ羽ばたく選手を育成するため、加盟競技団体と連携し、ジュニア世代(小・中・高校生)を対象とした強化事業を実施した。  ◆ジュニア強化事業 スポーツの振興と競技水準向上を目的に、加盟団体のうちジュニア選手の強化事業を実施している27競技団体に対して、係る経費の一部を助成して支援を行った。  ◆にいがたスーパージュニア育成事業(以下、SJ育成事業) ボクシング、柔道、バドミントンの3種目について、新潟市からオリンピックなど国際大会で活躍する選手の輩出を目指し、オリンピック等の国際大会で活躍した選手やコーチを招へいして通年(年10回程度)による選手強化を行った。  ◆氷上スポーツ育成事業 国内外で活躍する選手や講師を招聘し、フィギュアスケート、アイスホッケー、カーリングの教室・体験会を行った。	ジュニア強化事業実施数 27団体 SJ育成事業数 2事業 氷上スポーツ育成事業実施数 3団体	ジュニア強化事業実施数 27団体 SJ育成事業数 3事業 氷上スポーツ育成事業実施数 3団体	A	ジュニア強化事業は各団体を対象に実施状況や課題等のヒアリング(隔年)を行い、次年度予算配分を決定した。競技実績や指導体制など点数化しており、効果的な予算配分ができていと考えられる。 SJ育成事業は3年目を迎え、H30年度からバドミントンを加えた計3競技で実施している。インターハイ(柔道)ではSJ育成事業OB・OGが準優勝するなど成果が出ている。 カーリング、アイスホッケー、フィギュアの氷上スポーツ育成事業においては、国内外で活躍する選手や講師を招へいした。	1	ジュニア強化事業については、スポーツの普及振興や競技力の底上げを担う事業であることから、継続して実施していく。 SJ育成事業については、ヒアリング等を実施して3年目の成果を検証する。 氷上スポーツ育成事業は、ジュニア層の競技力向上を目的に競技団体と連携を図り実施する。	3	順調に取り組まれている。
2	スポーツ指導者講習会 (スポーツ協会)	本市の競技力の向上を図るため、ジュニア強化に携わる指導者や関係者など市民を対象とした研修会を開催した。	講習会開催数 1回 100人	講習会開催数 2回(午前・午後)77人	C	前年度まで年1回、1テーマで実施したが、参加者の要望を受けて、コーチングと栄養学の2つを午前・午後に分けて講習会を実施したところ、昨年度(62人)と比較すると参加人数は増加したが、目標までは届かなかった。	1	多様化する市民や競技団体のニーズに対応するため、複数テーマの実施や日程(同日の午前・午後ではなく、日にちを分けて開催するなど)について引き続き検討する。	3	順調に取り組まれている。
3	国際大会等出場者激励金	本市を代表して国体及び海外での国際大会に出場する選手、監督等に激励金を支給し、また、全国大会に出場する小中高生に対しても激励金を支給した。	国体出場者 180人 国際大会出場者 6人 小・中・高校生全国大会出場者 520人	国体出場者(冬季含む) 176人 国際大会出場者 17人 小・中・高校生全国大会出場者(甲子園含む) 536人	B	国体出場者は若干の目標未達ではあるものの、他は目標を上回る出場者数であり、目標を達成した。  平成29年度実績 国体出場者201人 国際大会19人 全国大会(甲子園含む)505人	2	平成30年度から、内容改正(一部金額変更)した制度で運用開始した。予算の範囲内で申請のすべてに対して激励金を支給することができた。今後も運用を継続し、スポーツの奨励と振興に寄与する。	3	順調に取り組まれている。

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成30年度実施事業 進行管理調書

基本方針	競技スポーツ: 競技力の向上を推進します。
基本目標	新潟から世界へ羽ばたく選手を育成し、世界を目指すスポーツ文化の発信地になる夢を実現するため、競技力の向上を推進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
 E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
 7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている  
 2・・・概ね取り組まれている  
 1・・・より積極的な取り組みをお願いする  
 0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価			
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
4	全国障がい者スポーツ大会選手派遣事業	平成30年10月に開催された第18回全国障害者スポーツ大会「福井しあわせ元気大会」へ新潟市代表として選手を派遣した。	個人競技 18人	個人競技 26人 団体競技 7人	A	選考会となる県大会出場選手が減少傾向にある中ではあるが、市選手団として派遣することができた。	2	今後も障がい者の社会参加やスポーツに取り組むきっかけを作るため、より多くの方に出場機会を提供し市選手団を全国障害者スポーツ大会に派遣する。	3	順調に取り組まれている。
			11,610	12,477						
5	全国障がい者スポーツ大会選手強化事業	全国障害者スポーツ大会に派遣する選手を対象とした練習会を開催するとともに、団体競技において強化指定チームへの支援を行った。また、新たな選手の育成に向け各種スポーツ教室を開催した。	練習会・合宿の開催	練習会・合宿の開催	B	練習会において専門的な指導を行うことで競技力向上が図られた。また、強化指定チームに強化費を助成することで大会遠征や継続的な活動が行われている。	2	個人競技では全国大会で大会新記録を達成した選手が出てくるなど選手強化の成果が表れており、引き続き取り組みを行っていく。	3	順調に取り組まれている。
			3,065	3,065						
6	障がい者スポーツ全国大会参加励励金支給	国や公共団体等が主催する障がい者全国大会等の参加者に励励金を支給。	実施	個人53人 団体3団体	B	H29年度(個人26人、団体4団体)を上回る支給実績となった。	2	全国大会へ参加する者の負担を軽減し、積極的な社会参加を促している。引き続き励励金の支給し、支援を行っていく。	3	順調に取り組まれている。
			405	515						

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成30年度実施事業 進行管理調書

基本方針	みるスポーツ:みる機会、交流機会の拡大を図ります。
基本目標	国際・全国規模の大会やナショナルチームの合宿等を誘致するとともに、地元プロスポーツチームとの連携を推進し、トップアスリートのプレイを見ることで感動と興奮を共有し、ふれあいや地域の交流を促進します。

A・・・指標を上回って達成	B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った	D・・・指標を大きく下回った
E・・・未着手	

1・・・充実	2・・・現状維持	3・・・内容見直し
4・・・縮小	5・・・廃止・休止	6・・・完了
7・・・その他		

3・・・順調に取り組まれている
2・・・概ね取り組まれている
1・・・より積極的な取り組みをお願いする
0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)			
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
1	ドキドキ・ワクワクスポーツふれあい促進事業	<p>プロスポーツチームを通じて、夢と感動を共有し、青少年の心身の健全育成とスポーツ文化の醸成を図るため開催した。</p> <p>1. サッカー教室開催 期日:平成30年7月1日 会場:新潟県スポーツ公園</p> <p>2. サッカー指導者派遣 期日:平成30年5月11日～12月31日 54回 会場:デンカビッグスワンスタジアムほか</p> <p>3. サッカー観戦招待 期日:平成30年4月2日～平成31年3月31日まで11試合 会場:デンカビッグスワンスタジアム</p> <p>4. 野球観戦招待 期日:平成30年6月1日～11月30日まで7試合 会場:HARDOFF ECOスタジアム新潟</p> <p>5. 男子・女子バスケットボール観戦招待 期日:平成30年10月11日～平成31年2月10日まで6試合 会場:新潟市東総合スポーツセンターほか</p>	<p>サッカー教室参加者数 300人</p> <p>サッカー指導者派遣数 182人</p> <p>サッカー観戦招待者数 20,000人</p> <p>野球観戦招待者数 85組</p> <p>バスケットボール観戦招待者数 70組</p>	<p>サッカー教室参加者数 486人</p> <p>サッカー指導者派遣数 148人</p> <p>サッカー観戦招待者数 10,564人</p> <p>野球観戦招待者数 135組</p> <p>バスケットボール観戦招待者数 90組</p>	B	<p>昨年度参加者数が減少し課題となったサッカー教室(130人)だが、改善(対象者を小学生一園年中生～小学生に拡大など)を行なった結果、参加者数が大幅に増え目標を大きく上回ることができた。</p> <p>サッカー観戦招待者数は、目標未達、昨年度と比べても大きく落ち込んでいる。J2への降格やJ2での成績不振による観戦者数自体の減少が、申込者数の減少に影響している。</p>	3	<p>サッカー教室については、引き続き参加者数の増加に努める。</p> <p>観戦招待については、チーム成績によるところが大きい。観戦者数全体が減少している中、年々サッカー観戦招待の申込者数が減少している。申込者数を増やすべく、告知方法などの改善が必要である。</p>	3	順調に取り組まれている(特に、サッカー教室参加者数が昨年比3倍であることが評価できる)。
2	プロ野球招致推進事業	<p>官民が一体となった「プロ野球新潟招致委員会」により、プロ野球公式戦を招致し、観戦招待事業や、横浜DeNAベイスターズのラミレス監督のトークショーを開催した。</p> <p>平成30年4月17日(火) 横浜DeNAベイスターズvs読売ジャイアンツ</p>	<p>プロ野球公式戦開催数 1試合</p>	<p>プロ野球公式戦開催数 1試合</p>	B	<p>ハードオフ エコスタジアム新潟のオープン以来、一定数のプロ野球公式戦を招致・開催しており、新潟でプロ野球を楽しむ環境が整っている。</p> <p>開催機運醸成のためのトークショーを実施し、県民シートとして福祉施設関係者を観戦招待した。</p>	2	<p>プロ野球公式戦の開催実績を重ねるとともに、観戦招待事業をはじめとする興行支援を行い、機運の醸成を図りながら将来的な球団誘致も視野に入れるとともに、交流人口の拡大、地域活性化につなげていく。</p>	1	試合数を増やす取り組みをしてほしい(来年度以降の取り組み結果に期待しての評価)。
3	大会、合宿等誘致の推進	<p>東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会などのナショナルチーム事前・直前合宿や障がい者スポーツの全国大会を誘致・開催した。</p> <p>◆国際大会 第22回国際ユースサッカーin新潟</p> <p>◆全国大会 第1回女子硬式野球新潟大会、第14回日本車椅子カーリング選手権、第20回全日本選抜選層軟式野球大会、高松宮杯全日本軟式野球大会(2部)、第20回全国中学選抜卓球大会、平成30年度風間杯第62回全国高等学校選抜レスリング大会</p> <p>◆合宿 女子硬式野球、女子硬式野球(U18)</p>	<p>国際大会数 2</p> <p>全国大会数 7</p> <p>ナショナルチーム合宿数 3</p>	<p>国際大会数 1</p> <p>全国大会数 6</p> <p>ナショナルチーム合宿数 2</p>	C	<p>ワールドカップ6連覇を達成した女子硬式野球日本代表の合宿や日本車いすカーリング選手権大会の開催により、新潟市の知名度の向上、スポーツを通じた交流の推進や地域経済の活性化を図ることができた。</p>	1	<p>平昌冬季五輪のロシア・フィギュアスケートの合宿の実績を基に、市内での合宿実績を積み上げるにより、今後のオリンピック・パラリンピック直前合宿や国際・全国大会の誘致・開催につなげる。</p>	2	より取り組みをお願いしたい。

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成30年度実施事業 進行管理調書

基本方針	みるスポーツ:みる機会、交流機会の拡大を図ります。
基本目標	国際・全国規模の大会やナショナルチームの合宿等を誘致するとともに、地元プロスポーツチームとの連携を推進し、トップアスリートのプレイを見ることで感動と興奮を共有し、ふれあいや地域の交流を促進します。

A・・・指標を上回って達成  
B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った  
D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている  
2・・・概ね取り組まれている  
1・・・より積極的な取り組みをお願いする  
0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)			
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
4	氷上スポーツイベント 開催事業	新潟市アイスアリーナにおいて、村上佳菜子さんや、県内選手によるフィギュアスケート演技発表会を行い、トップアスリートの演技に触れる機会を提供し、フィギュアスケート、アイスホッケー、カーリングの教室・体験会を行い、氷上スポーツを行うきっかけとなるイベントを開催した。  平成31年3月16日(土) 新潟アサヒアレックスアイスアリーナオープン5周年イベント	イベント参加者数 580人	イベント参加者数 656人	A	村上佳菜子さんといったトップスケーターを招致できたこと、ラジオやテレビCM、市HPバナーなどの広報に努めたことで、目標を上回ることができた。	2	フィギュアスケート教室については定員をはるかに上回る応募があったため、氷上スポーツに対する興味や関心は高まっていると考える。知名度のあるゲストスケーターを迎えるなど、より多くの方に楽しんでいただける魅力のあるイベントにする。	3	順調に取り組まれている。
5	オリンピックムーブメント 事業	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて市内の機運醸成を図るため、オリンピックムーブメントの普及・啓発を目的としたイベントを開催した。  実施主体 新潟市文化・スポーツコミッション オリンピック教室 平成30年9月21日(金)(濁川中学校) オリンピックデーラン 平成30年9月22日(土)(デンカビッグスワン)	参加者数 1,000人	参加者数 1,111人	A	オリンピック教室については、オリンピックによる自身の経験に基づいたオリンピック精神を学ぶ機会を提供することができた。オリンピックデーランについては、オリンピックと市民の交流の機会を提供することができた。	2	オリンピックムーブメントの普及・啓発はもとより、オリンピックに向けた市内の機運醸成から今後の外国からの観光客の誘致や国際大会等の誘致に向けた取り組みにつなげる。	3	順調に取り組まれている。
6	国際ユースサッカー in新潟の開催	国際サッカーイベントを通じたスポーツ交流により、各国青少年の相互理解及び国際友好親善を深めるとともに、新潟を国内外に大きくアピールした。海外からはヨーロッパ、南米からそれぞれ1チームずつ参加した。  平成30年7月14日(土)～16日(月) デンカビッグスワンスタジアム 他  参加チーム 海外招待(メキシコ、クロアチア)U17代表 U17日本代表 U17新潟選抜	観戦者数 5,000人(3日間)	観戦者数 7,000人(3日間)	A	出場選手からは多くのA代表選手が選出されており、2020東京オリンピックに向けての注目度が高まっている。	2	ユースのトップチームによるレベルの高いゲームを本市を含む県内各地で開催することにより、サッカー機運の醸成及び地区サッカー協会の運営能力の向上に大きな役割を果たしている。  ※昭和63年からの全国ユースサッカー大会を前身とし、平成9年より「国際ユースサッカーin新潟」として毎年開催し、平成30年度で22回目を迎えた。	3	長く続いていることも評価でき、順調に取り組まれている。
7	日韓交流少年サッカー の開催	日韓の小学生世代における国際交流と競技力の向上を目的に開催し、韓国蔚山市サッカー協会と新潟市サッカー協会の相互交流が図られている。  平成30年8月3日(金)～6日(月) 蔚山市	交流回数 1回	交流回数 1回	B	平成30年度は新潟市の選手13名が韓国・ウルサン市を訪問しサッカー交流を行った。	2	今後も相互交流を続けることを両協会が確認した。  ※平成12年から始め、平成30年度で16回目を迎えた。	3	長く続いていることも評価でき、順調に取り組まれている。

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成30年度実施事業 進行管理調書

基本方針	支えるスポーツ:スポーツを支える環境を構築します。
基本目標	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている  
2・・・概ね取り組まれている  
1・・・より積極的な取り組みをお願いする  
0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)			
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
1	スポーツ施設の管理運営・整備	スポーツの普及振興を図り、市民の健全な発達と明るく豊かな市民生活の形成に寄与するため、本市が設置するスポーツ施設の管理運営を行う。また、スポーツ施設の運営が円滑に行われるよう必要な補修工事を行う。  【H30工事実績】 ・遊水館プール濾過設備改修工事 ・小須戸運動広場野球場バックスクリーン改修工事 ・鳥屋野総合体育館中央監視装置更新工事 ほか	施設利用者数 4,000,000人	施設利用者数 約4,010,000人	B	昨年度(約4,160,000人)と比べると、補修工事による利用中止などにより利用者が減少した区が多いが、全体としては目標を達成した。	2	市民の健全な発達と明るく豊かな市民生活のため、スポーツ施設の管理運営及び必要な補修工事を行う。	2	今後さらに利用者が増えるように、取り組みを続けてほしい
2	スポーツ施設の整備・改修方針の検討	昭和39年開催の新潟国体に合わせて整備された施設など老朽化が進んでいる施設もあり、大規模な改修や更新、施設の集約化を計画的に行う必要があることから、スポーツ施設の整備・改修方針の検討を行う。	集約化方針の検討	集約化方針の検討	B	昨年度に収集した施設関係の情報を基に、整備・改修方針の素案(たたき台)の検討、作成に着手した。	2	今後は、各区スポーツ担当課などとともに、素案の検討を進める。また、当市全体としての各種施設の配置方針の検討と足並みを揃えながら取り組んでいく。	2	今後、スピード感を持って取り組んでほしい。
3	スポーツと音楽功労者表彰事業	スポーツと音楽芸能の振興及び発展を目的に、功績が顕著な個人または団体を表彰している。  表彰数:スポーツ関係471件(平成30年3月31日現在)	実施	実施 (スポーツ関係8名)	B	市スポーツ協会を通じ競技団体などからの推薦に基づき、スポーツ・音楽功労者選考会議に諮り、適正に表彰を行なった。	2	今後も、本市のスポーツと音楽芸能の振興及び発展に尽くした功労者を表彰し、スポーツを支える環境づくりを進める。	2	概ね順調に取り組まれている。



第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成30年度実施事業 進行管理調書

基本方針	支えるスポーツ:スポーツを支える環境を構築します。
基本目標	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている  
2・・・概ね取り組まれている  
1・・・より積極的な取り組みをお願いする  
0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)			
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
4	スポーツ推進委員の活動推進	地域スポーツの推進役となるスポーツ推進委員の資質向上を目的に市スポーツ推進委員連盟自主研修会を開催した。	研修会開催数 2回	研修会開催 3回	A	平成30年度新任スポーツ推進委員などを対象とした新任研修会をはじめ、全体研修会、新年研修会と年3回の研修会を開催。	2	地域スポーツの推進役であり要である推進委員には、知識や技能の向上が求められている。今後も資質向上に繋がるよう一層の支援に努める。	2	参加者数(参加率)の増加に向けて取り組んでほしい。
			0	0						
5	スポーツ振興会の育成・支援	スポーツ振興会の中心的役割を担うマネージャーの育成と資質向上のため研修会を開催した。	研修会開催数 1回	研修会開催 1回	B	新潟医療福祉大学佐藤敏郎教授を講師に招き、中高年者の健康づくりのための運動とその効果についての講演会を開催。	2	今後も市スポーツ推進委員連盟などと連携し、充実した研修会が開催できるよう内容を協議し、実施していきたい。	2	参加者数(参加率)の増加に向けて取り組んでほしい。
			0	0						
6	スポ柳都にいがた指導員養成研修会	ジュニア層の指導者の養成・資質向上のため、研修会を開催した。本研修会修了者を少年少女スポーツ大会の指導者資格の一つとしている。	参加者数 100人	参加者数 49人	C	参加者数は減少したが、少年少女の4種目だけではなく、多種多様な競技を専門としている方々に興味を持ってもらえた研修会となった。	2	参加者アンケートの内容をもとに、実績のある講師を迎えるなど、魅力があり資質向上のための一助となる研修会となるよう内容を検討していく。	2	PRの工夫をするなど、参加者数の増加につながるようにしてほしい。
			15	14						
7	スポーツボランティアの育成	10月8日(月・祝)に開催した新潟シティマソン2018において、救護や給水、手荷物返却などの業務に従事するボランティアに目標を大きく超える600人程度の参加があった。	シティマソン学生・企業ボランティア数 100人	シティマソン学生・企業ボランティア数 598人	A	専門学校や高校、民間企業などに働きかけを行い、中学生を含む学生(464人)及び企業(134人)から参加があった。	1	今後も大学や専門学校、高等学校、中学校、企業などへ協力を依頼していくとともに、公募ボランティアについても引き続き募集していく。	3	目標を上回るボランティア数である。人数の少ない大学生へのアプローチも行なっており、順調に取り組まれている。
			0	0						

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成30年度実施事業 進行管理調書

基本方針	スポーツ情報ネットワーク・スポーツ医科学支援体制 :スポーツ情報ネットワークとスポーツ医科学支援体制を充実します。
基本目標	スポーツ情報の発信に努めるとともに医科学支援体制の充実を図ります。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている  
2・・・概ね取り組まれている  
1・・・より積極的な取り組みをお願いする  
0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価<第1次評価>				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価<第2次評価>			
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
1	目指せオリンピック! 医科学サポート事業 (スポーツ協会)	にいがたスーパージュニア育成事業の実施にあわせてスポーツトレーナー等を派遣し、傷害予防やコンディショニング調整を目的に競技力の向上を図った。	スポーツトレーナー派遣競技団体数 2団体(柔道・ボクシング)	スポーツトレーナー派遣競技団体数 3団体(柔道・ボクシング・バドミントン)	B	にいがたスーパージュニア育成事業の対象である3団体を対象として事業を実施し、傷害予防・コンディショニング調整等により競技力向上に寄与した。 また、バドミントンにおいては県医科学センターの体力測定等を活用し始めた。	1	競技団体とのヒアリングを実施して課題や現状について共有を図りながら、オリンピックや国際大会等に出場・活躍する選手の輩出に向けて強化指定選手を医科学面で更にサポートしていく。	2	事業のジュニアだけでなく、加盟連盟・協会にも活用されるよう、より取り組みをお願いしたい。
2	公共予約システムの運用	市民がいつでも気軽にスポーツ施設を利用できるよう、インターネットによる施設予約システムの充実・運用を図る。 ・スマートフォンサイトの開設(H28.3.1)	システム利用件数 31,000件	システム利用件数 29,667件	C	申込みにシステムを利用した割合は、昨年度よりも増加したが、全体の予約件数が昨年に対して減少したため、目標未達となった。	2	市民の利便性のため、施設予約システムの運用を継続し、周知に努める。	1	システムの利用促進に向けた取り組みをしてほしい。
3	スポーツ振興課ホームページ	スポーツに関する施設、大会・イベント、団体などの情報について、市民への情報提供を行う。	アクセス数 1,000,000件	アクセス数 約945,000件	C	昨年度実績と比較すると、7月から11月までのアクセス数の減少幅が特に大きいことから、昨年夏頃の高温により、市民が運動やスポーツを控えたことが影響していると考えられる。	2	ホームページを活用した市民への情報提供を継続する。また、総合体育館など各区基幹施設やシニアマラソンやヒルクライムなどのイベントページへのアクセスが多いことから、引き続き施設情報の見直しやイベント情報の更新を行う。	2	SNSなどを活用した情報発信を行うなど、より市民に情報提供できる取り組みをしてほしい。